

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 8 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K12454

研究課題名(和文) 朝鮮半島の植民地遊廓の形成・展開・変容～解放後韓国への連続/非連続に注目して～

研究課題名(英文) The formation, development and transformation of colonial yukaku in the Korean Peninsula: Focusing on continuity/discontinuity in post-liberation Korea

研究代表者

金 富子 (KIM, Puja)

東京外国語大学・その他部局等・名誉教授

研究者番号：40558102

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：1つ目は、植民地遊廓の痕跡と解放後韓国への影響に関して、現地のフィールドワークやインタビューを通じて、文献資料だけでは得られない生の情報を得て、その実相を歴史的・地理的・具体的に把握できたことだ。2つ目は、現代韓国の性売買に関する著作2冊を監訳・出版したことを契機に、性売買経験当事者女性を招いて公開集会を行い、その生の声を共有したことだ。3つ目は、日本の公娼制研究でも十分に行われていない地方財政から植民地遊廓を分析する独自の視点を開発したことだ。これらにより、各都市の植民地遊廓を貫通する有効な分析方法を獲得するとともに、植民地遊廓から解放後韓国への影響をある程度解明することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究が植民地期朝鮮の各都市の植民地遊廓に貫通する植民地の特殊性について地方財政に着目する視点を開発したことは、日本の公娼制研究でも十分になされていないため、学術的意義がある。また、本研究が、韓国女性運動が明らかにした性売買構造と性売買経験当事者女性の声に関し、2冊の著作翻訳・出版や公開集会などを通して、初めて日本の市民・研究者に紹介したことは社会的意義をもつとともに、日韓の性売買比較研究、近現代日本の公娼制度・性売買研究の発展に資するという学術的意義をもつ。

研究成果の概要(英文)：First, through fieldwork and interviews on the ground, we were able to obtain first-hand information that could not be obtained from written sources alone regarding the traces of colonial yukaku and their impact on post-liberation Korea, and were able to grasp the actual situation historically, geographically, and concretely. Second, after supervising the translation and publishing of two books on sex trafficking in modern Korea, we invited women who had experienced sex trafficking to hold a public meeting and shared their real voices. Third, we developed a unique perspective for analyzing colonial yukaku from the perspective of local finances, which is not sufficiently addressed in research on licensed prostitution system in Japan. As a result, we were able to acquire an effective analytical method that penetrates colonial yukaku in each city, and to some extent elucidate the impact of colonial yukaku on post-liberation Korea.

研究分野：ジェンダー研究

キーワード：朝鮮 遊廓 公娼制 植民地支配 植民地遊廓 植民地公娼制 性売買 韓国

# 研究成果報告書

## 朝鮮半島の植民地遊廓の形成・展開・変容

～解放後韓国への連続/非連続に注目して～

The formation, development and transformation of colonial Yukaku in the Korean Peninsula :  
Focusing on continuity/discontinuity in post-liberation Korea

### 1. 研究開始当初の背景

1990年代以降、帝国日本が日清・日露戦争と植民地化のなかで居留地、占領地や植民地（朝鮮、台湾、「満洲」など）に持ち込んだ日本式公娼制に関する研究も盛んになり、日本軍との関係も指摘された。しかし、植民地都市別に日本軍駐屯や植民地支配の地域的あり方が日本式遊廓の形成・発展とどのような関係があるのかは具体的に明らかではなかった。

こうした問題意識をもって、金富子（研究代表者）と金栄（研究協力者）は、2003年から韓国および朝鮮民主主義人民共和国にある、かつての植民地都市に関する文献調査、現地フィールドワークやインタビューなどをそれぞれ重ねて来た。さらに2人は共著『植民地遊廓—日本の軍隊と朝鮮半島』（吉川弘文館、2018年）を刊行したが、同書では金富子が朝鮮南部に関して朝鮮開港から1920年代までのソウル（京城）の遊廓形成と展開（2018）を、金栄が朝鮮北部に関して再調査に基づき羅南、新たに会寧、咸興、慶興（2018）での具体的な形成と展開を実証した。一方、加藤圭木（研究分担者）は、これまで植民地期の朝鮮北部にある咸鏡北道の研究をしてきた（加藤2017）が、日本室素財閥と遊廓の関係、遊廓と地方財政の関係についても概略的に論じてきた（加藤2018）。

しかし、朝鮮開港後初めて遊廓が形成された朝鮮南部の釜山など各都市、朝鮮中部の元山（原・北朝鮮）朝鮮北部にあり当時はソウル（京城）につぐ大都市の平壤、工業都市だった興南、軍都だった清津などに関しては、手付かずの研究課題として残された。遊廓業であげた利益は地方財政に多大な税収をもたらしたが、その具体的な実相は未解明だ。また、1930年代以降、とくに日中戦争以降のソウル（京城）で植民地遊廓がどのように変容したのかも未完の課題である。さらに植民地解放後の韓国に植民地遊廓がどのようになったのか、その現状についても明らかではなかった。

### 2. 研究の目的

本研究は、これまでの調査研究と構築された人的ネットワークの蓄積の上に、公娼制のなかった

近代朝鮮社会にいかん日本式の遊廓（公娼制）が移植され、植民地期朝鮮の朝鮮軍（日本派遣軍）を含む在朝日本人社会と朝鮮人社会にどのような影響を与えていったのか、さらに植民地解放後の韓国にどのように連続／非連続していったのかに視野を広げて検証することをめざした。具体的には、(1)朝鮮南部（現・韓国）に関して釜山、大邱、仁川、ソウルなど、(2)朝鮮北部（現・朝鮮民主主義人民共和国）に関して平壤、元山、興南等において、どのように植民地遊廓が形成・展開されたのかについて、(3)解放後韓国の遊廓の痕跡と現在の性売買の現状も含め、文献調査とフィールドワーク、聞き取り調査などによって明らかにすることである。

### 3．研究の方法

当初は、前述の(1)朝鮮南部（現・韓国）の各都市および(3)植民地解放後韓国の遊廓の痕跡と現状に関する調査を金富子（研究代表者）が担当し、行くこと自体が困難な(2)朝鮮北部（現・朝鮮民主主義人民共和国）の各都市への現地調査を加藤圭木（研究分担者）が担当し、この訪朝調査に金栄（研究協力者）が協力するという研究対象の分担と現地調査の年次別の計画をたてた。しかし、周知のように、世界中を席卷したコロナ禍のため、初年度である2020年度から(1)～(3)の訪韓調査・訪朝調査の見通しが立たない状況になった。そのため、研究計画と研究方法を全面的に見直さざるをえなくなった。しかし、コロナ禍が明けた2022年度から訪韓調査が可能になったが、訪朝調査の実現は不可能なままであった。結果的に(1)と(3)を中心に、次の2期にわけて研究を行った。

1期) コロナ禍の2020年度～2021年度までは、研究代表者・分担者が各自で文献調査をしつつ、本研究課題に関連する韓国の研究者による報告をメインとするオンライン研究会を3回（2020年度＝釜山の日本式遊廓、2021年度＝ソウルの新町遊廓、植民地期の妓生）にわたり実施して、研究交流を行った。また、これらの当該論文の日本語訳を行った。

2期) 2022年度～2023年度までは、1期と同様に各自が文献調査をしつつ、訪韓調査が可能になったため、釜山の旧遊廓跡（2022年度）、群山・全州の旧遊廓跡（2023年度）、済州市のキーセン観光現地（同上）へのフィールドワークを行い、現地の女性運動家に協力を得て関係者にインタビューを行った。また、本研究課題に関連する日本の研究者の報告（福岡の性売買業者、植民地公娼制の再検証）やコメント、あるいは本科研の研究者が報告（植民地遊廓の地方財政）やコメントをする形で、対面・オンラインのハイブリットで研究会を開き、研究交流をした。

1期・2期を通じて、現代韓国の性売買に関する最新刊著作2冊の日本語訳を監訳・監修し出版したことをきっかけに、最終年度に現代韓国の性売買経験当事者を招いて公開集を開き、日本の市民や研究者とともに当事者たちの生の声を共有した。

#### 4. 研究成果

本研究の成果は、以下のように3点にまとめることができる。

第1に、朝鮮半島で最初に日本式遊廓が設置された釜山の旧遊廓跡とその後の展開（3年目）  
群山・全州の植民地遊廓跡とその後の展開（4年目）、1970～80年代キーセン観光の本拠地の一つ  
である済州市（4年目）へのフィールドワークを現地の女性運動家の協力とインタビューを得て共  
同で行ったことより、植民地遊廓から解放後韓国の性売買集結地へと展開するなかで、場所だけ  
なく、性売買システムなどがどのように連続したのか/しなかったのかについて、文献資料だけ  
では得られない生の情報を得て、都市別の実相を歴史的・地理的・具体的に把握できたことである。

第2に、現代韓国の性売買に関して、シンパク・ジニョン著『性売買のブラックホール 性売  
買のブラックホール』（ころから、2022年）の監訳・出版、さらに性売買経験当事者ネットワ  
ーク・ムンチ著『無限発話 買われた私たちが語る性売買の現場』（梨の木舎、2023年）の監修・出  
版をしたことを契機に、最終年度に性売買経験当事者ネットワーク・ムンチのメンバーを招き東京  
で公開集会と非公開セミナーを主催して、その生の声を市民や研究者たちと共有したことである。  
その生の声は、聴衆にインパクトを与え、新聞記事になるなど社会的反響を呼んだ。

第3に、研究課題に関連する研究者を韓国や日本から招いて毎年1、2回程度の研究会を行って  
きたことをふまえて、この4年間の共同研究の総括的な成果として最終年度である2024年3月に  
加藤圭木（研究分担者）を報告者として「植民地期朝鮮の地方財政と性買売」をテーマとするセミ  
ナーで行い、各都市の植民地遊廓に貫通する植民地的特殊性について地方財政に着目して実証する  
分析方法を開発したことである。この分析方法は、日本の公娼制研究でもほとんどなされていない  
ため研究上の成果である。

これらにより、各都市の植民地遊廓に関する個別事例の蓄積に加えて、植民地遊廓を貫通する  
有効な分析方法を開発するとともに、植民地遊廓から解放後韓国への影響をある程度解明するこ  
とができた。

以上。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

|                                       |                       |
|---------------------------------------|-----------------------|
| 1. 著者名<br>金 富子                        | 4. 巻<br>25            |
| 2. 論文標題<br>植民地ジェンダー史研究を振り返る / 研究業績    | 5. 発行年<br>2023年       |
| 3. 雑誌名<br>『クアドランテ』                    | 6. 最初と最後の頁<br>345-355 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし         | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>-             |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>加藤圭木                           | 4. 巻<br>764         |
| 2. 論文標題<br>朝鮮植民地化過程における軍用地収用：鎮海湾一帯を対象として | 5. 発行年<br>2022年     |
| 3. 雑誌名<br>『大原社会問題研究所雑誌』                  | 6. 最初と最後の頁<br>51-68 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし            | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）    | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>金 富子                         | 4. 巻<br>810         |
| 2. 論文標題<br>「公娼」論・「植民地公娼」論を検証する         | 5. 発行年<br>2021年     |
| 3. 雑誌名<br>『部落解放』                       | 6. 最初と最後の頁<br>31-39 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし          | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>金 富子                                      | 4. 巻<br>24            |
| 2. 論文標題<br>「民主化後韓国の反性売買女性人権運動：ポストコロニアル・フェミニズムの視点から」 | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>『クアドランテ』                                  | 6. 最初と最後の頁<br>125-127 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                       | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難              | 国際共著<br>-             |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>加藤圭木                         | 4. 巻<br>101         |
| 2. 論文標題<br>「日本軍「慰安婦」問題と向き合うために」        | 5. 発行年<br>2021年     |
| 3. 雑誌名<br>『季刊セクシュアリティ』                 | 6. 最初と最後の頁<br>26-29 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|  |                    |
|--|--------------------|
| 1. 著者名<br>加藤圭木                         | 4. 巻<br>842        |
| 2. 論文標題<br>問われる植民地支配認識 変貌する朝鮮半島と日本     | 5. 発行年<br>2020年    |
| 3. 雑誌名<br>歴史評論                         | 6. 最初と最後の頁<br>5-17 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-          |

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 4件）

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>加藤圭木                                   |
| 2. 発表標題<br>日本の歴史認識と植民地研究「紙に描いた日の丸」                |
| 3. 学会等名<br>第72回ソウル大学国史学科 BK21韓国学コロキウム（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年<br>2022年                                   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>加藤圭木  |
| 2. 発表標題<br>大学生とともに日本軍「慰安婦」問題を学ぶ 『「日韓」のモヤモヤと大学生のわたし』の軌跡 |
| 3. 学会等名<br>「女性・戦争・人権」学会大会（招待講演）                        |
| 4. 発表年<br>2022年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>加藤圭木  |
| 2. 発表標題<br>植民地朝鮮における性買売研究の展望 地域社会史の視点から                    |
| 3. 学会等名<br>遊廓科研総括・植民地遊廓科研共催セミナー 「一次史料に基づく『遊廓社会』史研究の到達点と課題」 |
| 4. 発表年<br>2023年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>金 富子                                  |
| 2. 発表標題<br>「日本公娼制 / 植民地公娼制 / 日本軍「慰安婦」制度の異同を再考する」 |
| 3. 学会等名<br>韓国・日本軍「慰安婦」研究会総会（招待講演）（国際学会）          |
| 4. 発表年<br>2021年                                  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>金 富子                           |
| 2. 発表標題<br>「ラムザイヤー「公娼」論・「植民地公娼」論を検証する」    |
| 3. 学会等名<br>東日本部落解放研究所2021年度第1回定例研究会（招待講演） |
| 4. 発表年<br>2021年                           |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>金 富子                               |
| 2. 発表標題<br>「日本の歴史修正主義とサバイバー証言の否定」             |
| 3. 学会等名<br>韓国・金学順公開証言30周年記念国際学術大会（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年<br>2021年                               |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>加藤圭木                             |
| 2. 発表標題<br>日本の歴史認識と大学生がつくった日韓関係入門書          |
| 3. 学会等名<br>韓国・ソウル市立大学校2021人文大学校名士招請講演（招待講演） |
| 4. 発表年<br>2021年                             |

|                                  |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名<br>金 富子                  |
| 2. 発表標題<br>「日本 / 植民地の公娼制」        |
| 3. 学会等名<br>日本軍「慰安婦」研究会（韓国）（国際学会） |
| 4. 発表年<br>2020年                  |

〔図書〕 計7件

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>シンパク・ジニョン著、金 富子（監訳、あとがき）          | 4. 発行年<br>2022年 |
| 2. 出版社<br>ころから                              | 5. 総ページ数<br>256 |
| 3. 書名<br>『性売員のブラックホール 韓国の現場から当事者女性とともに打ち破る』 |                 |

|                                  |                 |
|----------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>加藤 圭木                  | 4. 発行年<br>2021年 |
| 2. 出版社<br>岩波書店                   | 5. 総ページ数<br>244 |
| 3. 書名<br>『紙に描いた「日の丸」 足下から見る朝鮮支配』 |                 |



|                                  |                 |
|----------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>高麗博物館朝鮮女性史研究会（金富子寄稿）   | 4. 発行年<br>2021年 |
| 2. 出版社<br>社会評論社                  | 5. 総ページ数<br>352 |
| 3. 書名<br>『朝鮮料理店・産業「慰安所」と朝鮮の女性たち』 |                 |

|                                  |                 |
|----------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>金富子・小野沢あかね編著           | 4. 発行年<br>2020年 |
| 2. 出版社<br>岩波書店                   | 5. 総ページ数<br>284 |
| 3. 書名<br>性暴力被害を聴く 「慰安婦」から現代の性搾取へ |                 |

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>韓国挺身隊問題対策協議会・二〇〇〇年女性国際戦犯法廷証言チーム、金 富子・古橋 綾編訳 | 4. 発行年<br>2020年 |
| 2. 出版社<br>岩波書店  | 5. 総ページ数<br>332 |
| 3. 書名<br>記憶で書き直す歴史 「慰安婦」サバイバーの語りを聴く                   |                 |

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>方法論懇話会、北條勝貴、岡本雅享、是澤櫻子、加藤圭木、佐藤壮広、川端浩平、工藤健一、杉浦 鈴、須田 努、西村 明、内田 力、門屋 温、アンダソヴァ・マラル（Andassova Maral）、土居 浩、黒田 智、師 茂樹、池田敏宏、水口幹記 | 4. 発行年<br>2020年 |
| 2. 出版社<br>森話社   | 5. 総ページ数<br>336 |
| 3. 書名<br>療法としての歴史 知   |                 |

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>性売買経験当事者ネットワーク・ムンチ著、金 富子（監修、あとがき） | 4. 発行年<br>2023年 |
| 2. 出版社<br>梨の木舎                              | 5. 総ページ数<br>196 |
| 3. 書名<br>『無限発話－買われた私たちが語る性売買の現場』            |                 |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                   | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)                 | 備考 |
|-------|---|---------------------------------------|----|
| 研究分担者 | 加藤 圭木<br><br>(KATO Keiki)<br><br>(40732368) | 一橋大学・大学院社会学研究科・准教授<br><br><br>(12613) |    |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

|   |                    |
|---|--------------------|
| 国際研究集会<br>「ソウルにおける遊廓の形成と朝鮮人遊廓」（オンライン）         | 開催年<br>2021年～2021年 |
| 国際研究集会<br>「植民地時代の妓生：妓生集団の近代的再編の様相を中心に」（オンライン） | 開催年<br>2022年～2022年 |
| 国際研究集会<br>釜山における日本式遊廓の導入と定着～開港期から1910年代を中心に～  | 開催年<br>2020年～2020年 |

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|         |         |